

# 第4次多摩市生涯学習推進計画 中間見直し版

## 【概要】

令和8年度～令和12年度

# 中間見直しについて

---

## ■中間見直しの趣旨

本計画は、令和2年度に策定され、翌年度、計画開始当初は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベントや対面での事業の中止等が余儀なくされた状況にあり、感染拡大の状況や感染拡大防止に関するガイドライン等を踏まえた事業の実施や、市民自らによる工夫や対応がなされてきました。

本計画の開始から4年が経過し、多摩市においては、令和5年度に「第六次多摩市総合計画」を策定したほか、ゲームチェンジャーとして、パルテノン多摩のリニューアルオープンや市民活動・交流センター（KITAKAIさんぽ館）、中央図書館のオープンなどがあり、市民の生涯学習の場が様々に変化しています。また、新たな公共施設等の整備に伴い、生涯学習を推進する施策の状況も変化しています。リニューアルオープンしたパルテノン多摩では、市民学芸員との協働事業、市民活動支援公募事業の開始、新規オープンした市民活動・交流センターでは、市民が講師として実施する生涯学習講座などを新たに開始し、市民が担い手となり活躍できる場が広がっています。また、各分野施策の動向にも変化があることから、これらを踏まえ、見直しを行いました。

国の動向としては、令和5年6月に「第4期教育振興基本計画」を閣議決定し、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を計画のコンセプトとして掲げました。そして、令和6年6月の第12期中央教育審議会生涯学習分科会では、「社会人のリカレント教育※」「障害者の生涯学習」「外国人の日本語の学習」「社会教育人材」等について重点的に議論が行われ、それぞれについて国が取り組むべき方向性が示されました。

\*リカレント教育：社会に出た後も自身の仕事に必要な学びや時代のニーズに即した能力・スキルを得ること、さらに職業とは直接結びつかない技術や教養等を身に付けること

# 関連計画との位置づけ

「多摩市生涯学習推進計画」は、各部局で実施される各種施策について、生涯学習の視点から体系化し、生涯学習の推進、ひいては各種施策の目標達成を支援するための計画として策定しています。

計画の推進にあたっては、第六次多摩市総合計画を基軸とし、文化・芸術、スポーツ、教育等、様々な分野の個別計画との整合・連携を図ります。

令和8年（2026年）3月時点の計画に更新

第六次多摩市総合計画  
※令和5年（2023年）11月策定

第4次多摩市  
生涯学習推進計画  
中間見直し版

## 〈主な関連計画〉

- 多摩市健幸まちづくり基本方針
- 多摩市子ども・若者・子育てプラン
- 第二次多摩市教育振興プラン（改訂版）
- 第二次多摩市読書活動振興計画
- 多摩市みんなの文化芸術振興プラン2025
- 多摩市スポーツ推進計画
- 多摩市多文化共生推進基本方針

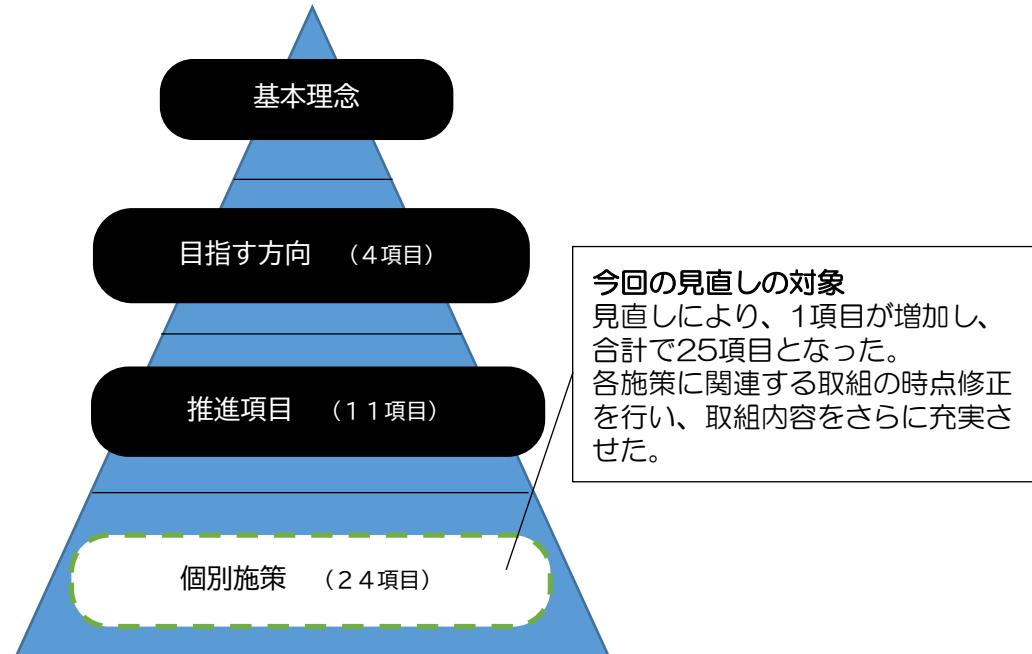
## 〈その他関連計画等〉

- 多摩市地域福祉計画
- 多摩市障がい者基本計画及び第5期多摩市障害福祉計画・第1期多摩市障がい児福祉計画
- 第9期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 第3次多摩市みどりと環境基本計画

# 中間見直しの対象範囲と計画期間

令和3年度の本計画策定以降、新型コロナウイルス感染症の拡大など、生涯学習を取り巻く社会環境は大きく変化しました。その中においても、「計画の基本理念」、「目指す方向」及び「推進項目」は、本計画の根幹を成すものであり、国や東京都の動向と照らし合わせても、その妥当性や普遍性は揺るがないものと判断し、今回の中間見直しではこれらの基本的な部分に変更は加えず、引き続き発展させていくこととしました。

一方で、国や東京都、市の動向及び市民の現状から抽出した現状と新たな課題等を踏まえ、24項目にわたる「個別施策」を中心に見直しました。また、より適切な評価を行うために、成果目標や評価の手順について見直すとともに時点的な修正も行いました。



本計画の期間は令和3年度から令和12年度までの10年計画として策定しました。

今回の中間見直しにより、令和8年4月から令和13年3月までの後期5年間において、見直した計画を推進していきます。

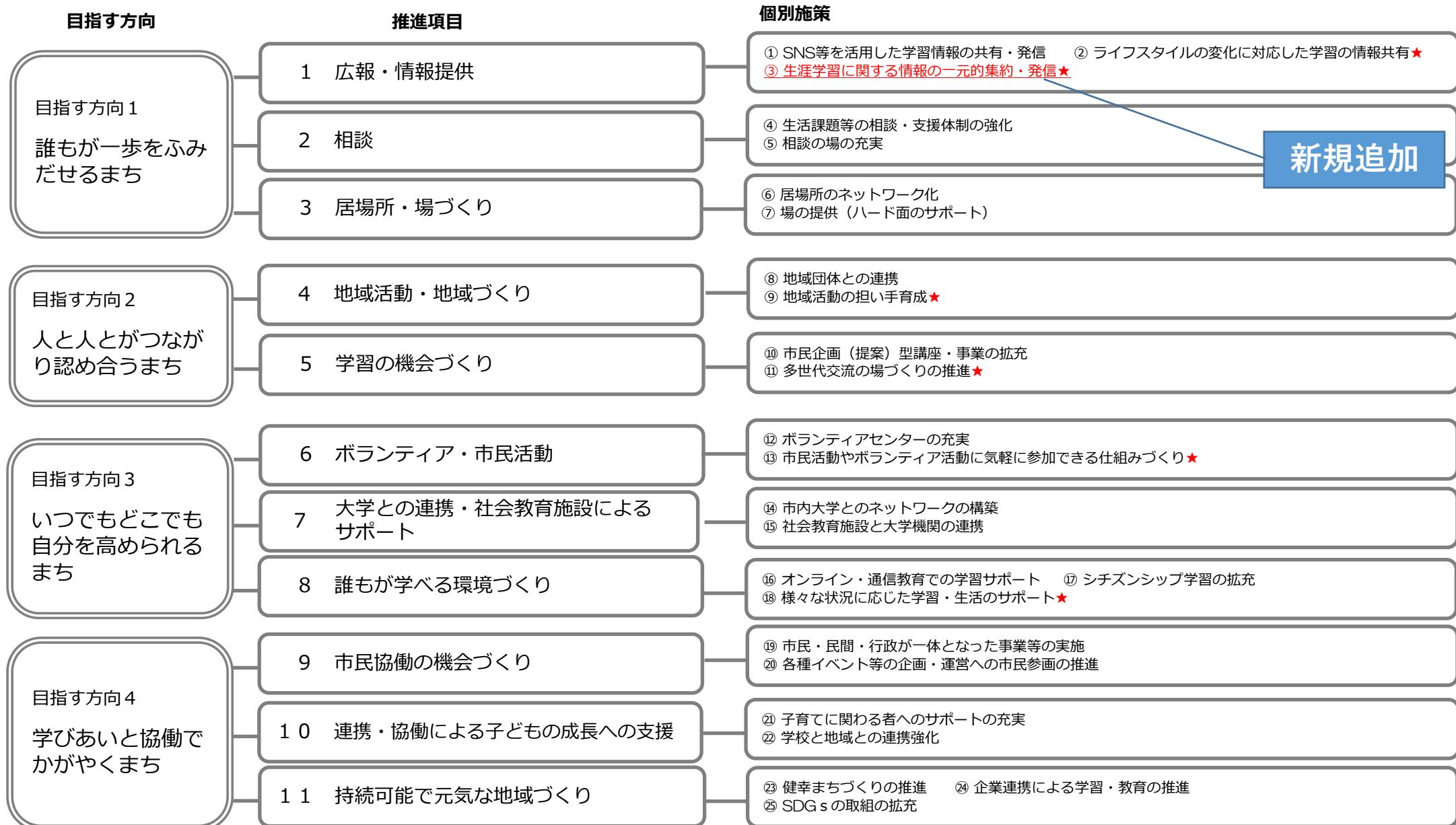


# 施策の体系

個別施策 (★=重点施策)

基本理念

学びあいがつむぐ“健幸”なまち  
「ふれあい」からはじまる地域づくり



新規追加

# これまでの成果や課題（1）

「本計画」では、推進にあたり、目指す方向を踏まえた11の推進項目を定め、成果目標を設定し、策定時の現状値（令和元年度）を向上させることを目指しました。これまでの成果と課題について、成果目標の定量的な評価と定性的な評価を組み合わせて振り返りました。

## 【主な定量評価①】

- 「ボランティア・市民活動」に関して、ボランティア活動や地域活動に関する学習経験のある市民が増加しており、活動に対する関心や意欲が高まっていることがうかがえます。
- 「誰もが学べる環境づくり」に関して、1年間に「生涯学習」を「現在、学習している」「これまでに学習したことがある」市民の割合は横ばい傾向にありました。性別・年齢別に見ると、特に30歳代から50歳代の男性において生涯学習の経験がないとする回答が多く、今後、結果の分析を行うとともに、課題の把握を進めが必要です。

| 推進項目          | 成果目標   | 令和元年度<br>(第38回) | 令和3年度<br>(第39回) | 令和5年度<br>(第40回) |
|---------------|--|-----------------|-----------------|-----------------|
| 6 ボランティア・市民活動 | この1年くらいの間に「ボランティア活動や地域活動に関するもの」について、「現在、学習している」「これまでに学習したことがある」と回答した市民の割合の向上 | 16.0%           | 14.8%<br>(→)    | 18.3%<br>(↗)    |
| 8 誰もが学べる環境づくり | この1年くらいの間に「生涯学習」を「現在、学習している」「これまでに学習したことがある」と回答した市民の割合の向上                    | 69.4%           | 68.4%<br>(→)    | 70.2%<br>(→)    |

# これまでの成果や課題（2）

## 【主な定量評価②】

- 「市民協働の機会づくり」「持続可能で元気な地域づくり」に関しては、いずれの成果目標数値も上昇しており、イベントの企画・運営に市民が参画する機会や、企業等との協働による学びの場の拡大などにより、学びの輪の広がりが成果として表れたものと考えます。
- 「連携・協働による子どもの成長への支援」に関しては、令和3年度で成果目標数値が上昇したものの、令和5年度では数値が下降しています。当該指標をライフステージ別に見ると、子育て世代においては肯定的評価が高く、この層では取組が評価されていることが確認されました。今後は、子育て世代以外の層にも事業内容や成果を届けていく「成果の見える化」を一層進めていくことが課題です。

| 推進項目                  | 成果目標  | 令和元年度<br>(第38回) | 令和3年度<br>(第39回) | 令和5年度<br>(第40回) |
|-----------------------|---|-----------------|-----------------|-----------------|
| 9 市民協働の機会づくり          | 市民参加のまちづくりについての市政に「満足」「やや満足」している市民の割合の向上                                    | 14.5%           | 13.0%<br>(↓)    | 16.2%<br>(↗)    |
| 10 連携・協働による子どもの成長への支援 | 「子どもがのびのびと過ごし、学び、成長できるまち」であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合の向上         | 60.1%           | 63.5%<br>(→)    | 56.9%<br>(↓)    |
| 11持続可能で元気な地域づくり       | 「健幸都市（スマートウェルネスシティ）・多摩」の推進（健幸まちづくり）の取り組みについて「よく知っている」「少し知っている」と回答した市民の割合の向上 | 38.8%           | 49.6%<br>(↗)    | 51.1%<br>(↗)    |

## 【主な定性評価】

- 「居場所・場づくり」に関して、近年、市内の公共施設である中央図書館や市民活動・交流センター等が新たにオープンしました。それにより、図書館の利用登録者数や貸出者数の裾野が広がり、市民活動・交流センターでは、従来の高齢者団体による利用に加えて、多世代が交流する場としても活用されるようになりました。また、かわまちづくり事業で、せいせきカワマチ（多摩川河川敷芝生広場）を整備したことで、新規イベント等が数多く開催され、誰もが、気軽に集える場づくりを推進することができました。令和7年4月にリニューアルした多摩中央公園は、周辺施設とも連携し、生涯学習の場が広がっていくことが期待されます。

# 市民インタビューの実施結果

|      |  |
|------|--|
| 目的   | 市民へ直接インタビューを行うことで市民の活動状況や意向を把握し、市民の意識や考え方を中間見直しに反映するため   |
| 実施期間 | 令和7年5月13日～令和7年6月7日   |
| 対象者  | ①市内でまちづくりに関わっている方、まちづくりに関わりたいと考えている方<br>②障がいを有している方で、市内で生涯学習活動をはじめ社会的な活動を行なっている方<br>③市内で子育て中の方<br>④退職をされている方で、市内で生涯学習活動をはじめ社会的な活動を行なっている方<br>⑤外国籍の方で、市内で生涯学習活動をはじめ社会的な活動を行なっている方   |
| 実施回数 | 9回   |
| 実施人数 | 23人  |
| 主な質問 | <p>(質問1) あなたは、現在、自分や他人をより良くするための取組(=生涯学習活動)をしていますか。もししているとすれば、それはどのようなことでしょうか？していないとすれば、それに何が理由がありますか。</p> <p>(質問2) その活動に当たって（あるいは活動を始めるに当たって）何か障害になっていることがありますか。例えば、情報が乏しい、仲間がない、施設が使いづらいなどまた、その障害を乗り越えるために社会や行政は何をすれば良いのでしょうか？あなたのアイデアを教えてください。</p> <p>(質問3) あなたの行なっている取組をさらに発展させるために、社会や行政は何をすれば良いのでしょうか？あなたのアイデアを教えてください。</p> <p>(質問4) 市内には、様々な文化施設、社会教育施設などがありますが、それらの利用価値を高めるためにどのような工夫が必要だと思いますか。</p> <p>(質問5) 市民の生涯学習活動をさらに促進するために、市は何をすべきでしょうか？</p> |

(質問1) あなたは、現在、生涯学習活動をしていますか。

していない

- ・子育てで忙しい
- ・外国人が参加してもいいか迷ってしまう

している（ボッチャ、バドミントン、編み物、マラソン等）

(質問2) 生涯学習活動に当たって（あるいは活動を始めるに当たって）障害になっていることはありますか。

- ・子育ての情報に限らず、情報が少ない
- ・市の公式XやLINEなどのSNSの存在を知らなかつた

日本語が聞き取れるか心配

（自分のために使う）時間がない

(質問3) あなたの行なっている取組をさらに発展させるために、社会や行政は何をすれば良いのでしょうか？あなたのアイデアを教えてください。

講座を通して、つながりができるようなきっかけがほしい

外国人住民と交流したい

（自分のために使う）時間がないので、オンライン講座は初めの一歩としてとりかかりやすいのでは

(質問4) 市内には、様々な文化施設、社会教育施設などがありますが、それらの利用価値を高めるためにどのような工夫が必要だと思いますか。

各施設や市役所の課でいろいろと事業をしているが、施設が個別にやっているから統一感がない。そういう情報をまとめて発信すれば、情報を求めている人に届きやすく、生涯学習の推進につながるのでは

(聴覚的な障害があるので)施設の窓口で話をするときに、話している言葉がぱっと文字起こしで出てくるような設備があったらいいと思う

(質問5) 市民の生涯学習活動をさらに促進するために、市は何をすべきでしょうか？

外国人が参加していいか迷ってしまうので、イベント等の募集の際に多言語でも表記すれば、外国人にも情報が届きやすい

- ・イベントのお知らせなどを登録したメールに直接お知らせが届けばもっと参加しやすくなる
- ・万人に伝わる情報提供をしてほしい

# 多摩市の生涯学習をめぐる課題と改善の方向性

本計画の後期となる今後5年間は、国や都の動向を踏まえ、リカレント教育の推進、高齢者や障がい者への生涯学習の推進、そして誰もが心身ともに健やかに生きられるウェルビーイングの実現といった視点が必要です。

こうした背景やこれまでの成果を踏まえながら、本計画の後期5年間を見据えた見直しを行うにあたり、市民の意識や考え方を反映するため、市民へのインタビューを実施しました。市民インタビューにより、生涯学習に関する、より効果的な情報提供や障がい者が生涯学習に取り組みやすい環境をつくるための障がい者の生涯学習に関する理解促進への取組などが必要とされていることがわかりました。これらを踏まえて、多摩市の生涯学習をめぐる主な課題及び改善の方向性を次のとおり整理します。

- (1) リカレント教育をはじめとした学び直しに係る情報収集と発信【新規】
- (2) 増加傾向にある在住外国人等に対し、生活のために必要な日本語等を習得できる環境の整備【拡充】
- (3) 障がい者が生涯学習に取り組みやすくなるための担い手の人材育成の推進【新規】
- (4) 高齢者や障がい者、外国人等も含む多様な市民が、地域の活動に参加するきっかけづくりや活動の担い手として活躍できるようなサポート【継続】
- (5) 外部評価手法の見直し

計画後期の5年間は、これまでの取組を継続的に進めていくとともに、抽出したこれらの課題に紐づく事業等を重点化し、取組と評価を進めることで、「学びあいがつむぐ“健幸”なまち」を実現していきます。

# 【目指す方向 1 誰もが一歩をふみだせるまち（個別施策の見直し内容）】

| 個別施策                    | 具体的な取組<事業例> ※太字下線が新規追加、太字は修正  |
|-------------------------|---|
| ①SNS等を活用した学習情報の共有・発信    | 学習や活動に必要な情報をSNSやアプリを活用してタイムリーに発信することで、学びや参加のきっかけとなるようサポート<br><多摩市公式X（旧Twitter）、Instagram、 <u>LINE</u> 、市民活動情報検索サイト、公民館通信>   |
| ②ライフスタイルの変化に対応した学習の情報共有 | 誰もが情報を気軽に入手できるよう様々な媒体で情報を発信・提供。 <u>特に、リカレント教育に関する情報発信に取り組む</u><br><地域デビュー手引書、f o r 4 0、 <u>（仮称）多摩市生涯学習情報ページ</u> 等>  |
| ③生涯学習に関する情報の一元的集約・発信    | <u>生涯学習に関する様々な情報について、一元的に集約し、情報発信するポータルサイトを構築</u><br>< <u>（仮称）多摩市生涯学習情報ページ</u> >  |
| ④生活課題等の相談・支援体制の強化       | 日常生活の中での疑問や悩み、不安などを、誰もが気軽に相談できるよう、相談窓口やサポート体制づくりを強化<br><多摩市版地域包括ケアシステム、平和・人権課及びTAMA女性センターが実施する相談事業>   |
| ⑤相談の場の充実                | 自身や地域の抱える問題や悩みごとなどを市民同士が話し合い、解決に向けた取組にふみ出せるよう、相談の場づくりを広げる<br><福祉なんでも相談、ふれあい・いきいきサロン>  |
| ⑥居場所のネットワーク化            | 地域の様々な居場所情報を集約して発信し、市民にとって気軽に立ち寄れる身近な場となるよう努める。<br><地域子育て支援拠点だより「わくわく通信」、 <u>子ども食堂・誰でも食堂MAP</u> >   |
| ⑦場の提供（ハード面のサポート）        | 学びや活動の場として、公共施設を利用できるよう環境の整備。 <u>新たにオープンした施設を地域の活動拠点、学びの成果を活かす場として有効に活用する。また、気候変動に対応した生涯学習の場を確保していく。</u><br><コミュニティセンター・コミュニティ会館、パルテノン多摩、公民館、図書館、総合体育館・武道館・温水プール> |

## 【目指す方向2 人と人がつながり認め合うまち（個別施策の見直し内容）】

| 個別施策               | 具体的な取組<事業例> ※赤字が新規追加、太字下線は修正   |
|--------------------|--|
| ⑧地域団体との連携          | 地域で活動する団体と連携し、様々な活動を通して地域や市民同士のつながりをサポート<br>< <b>地域協創</b> 、たすけあい有償活動、 <b>VITAふれあいまつり</b> >   |
| ⑨地域活動の担い手育成        | 市民主体の様々な地域活動の継続と活性化に向けて、地域への参加のきっかけや活動の担い手育成をサポート<br><わがまち学習講座、 <b>地域生活講座</b> 、エリアミーティング、放課後子ども教室、 <u>部活動の地域展開</u> 、<br><u>市民活動・交流センターで実施する生涯学習講座等</u> > |
| ⑩市民企画（提案）型講座・事業の拡充 | 市民自らが企画・提案し、誰もが主体的に学ぶ場や機会を提供できるよう環境づくりに努める。<br><出前講座、市民企画講座、 <u>パルテノン多摩ミュージアム市民学芸員養成講座</u> >   |
| ⑪多世代交流の場づくりの推進     | 交流の場の提供や人と人がつながることができるような環境整備を通して、多世代や <u>多様な人々</u> 、団体同士の交流をサポート<br><多摩市立市民活動・交流センター、コミュニティセンター・コミュニティ会館、多摩市版地域包括ケアシステム、公民館>                            |

# 【目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち（個別施策の見直し内容）】

| 個別施策                          | 具体的な取組<事業例> ※赤字が新規追加、太字下線は修正  |
|-------------------------------|---|
| ⑫ボランティアセンターの充実                | 多摩ボランティア・市民活動支援センターと連携し、誰もがボランティア活動や市民活動ができるようサポート<br><多摩ボランティア・市民活動支援センター>   |
| ⑬市民活動やボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり | 市民活動やボランティア活動を身近に感じられ、気軽に参加できる仕組みづくりを進める<br>< <u>多摩市スポーツボランティア</u> 、援農ボランティア、にゃんともTAMAるボランティアポイント（介護予防ボランティアポイント）、多摩ボランティア・市民活動支援センター、 <u>グリーンライブセンター</u> >   |
| ⑭市内大学とのネットワークの構築              | 市内大学とのネットワークを構築し、様々なニーズに応じた学びの機会づくりと提供<br><健幸まちづくりシンポジウム、大学連携事業>  |
| ⑮社会教育施設と大学機関の連携               | 公民館などの社会教育施設と大学機関が連携し、地域課題の解決など、市民の主体的な学びをサポート<br><地球大学院、 <b>大妻女子大学</b> と連携したビブリオバトル>   |
| ⑯オンライン・通信教育での学習サポート           | いつでもどこでも学びに取り組めるよう、オンラインや通信教育での学習の仕組みづくりに努める<br><YouTube多摩市公式チャンネル、防災に関するDVD等の無料貸出、日本語教室>   |
| ⑰シチズンシップ学習の拡充                 | ひとりの人間として、差別や偏見をせず、皆がともに生きていくことを理解・共感できる学習の機会を提供<br><国際交流事業（国際理解講座等）、平和・人権課及びTAMA女性センターが実施する関連講座・事業>  |
| ⑱様々な状況に応じた学習・生活のサポート          | 障害の有無、国籍、性別やライフスタイルなど、様々な状況に応じた学習や生活サポート。 <u>特に、障がい者の生涯学習推進に向けた担い手の育成を検討。また、増加傾向にある在住外国人に対し、日本語教室の拡充を進める。</u><br><多摩市立図書館障がい者サービス、障がい者スポーツ体験教室、手話通訳者・要約筆記者派遣、障がい者青年教室、 <u>障がい理解を深めて誰もが参加しやすい学びの場をつくるための講演会・研修</u> 、日本語教室、子育てひろば（地域子育て支援拠点事業）、就労支援事業（多摩市就労ガイドブックの配布等）> |

## 【目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち（個別施策の見直し内容）】

| 個別施策                    | 具体的な取組<事業例> ※赤字が新規追加、太字下線は修正  |
|-------------------------|---|
| ⑯市民・民間・行政が一体となった事業等の実施  | 市民、民間、行政が一体となって、事業等を実施することで、地域に参加することや活動する機会づくりを進める。<br><永山フェスティバル、 <u>多摩中央公園・多摩センター連携協議会による取組</u> 、グリーンボランティア活動 <u>グリーンライブセンター</u> >     |
| ⑰各種イベント等の企画・運営への市民参画の推進 | 市民が主体となって企画・運営するイベント等に、多くの市民が参画し、つながりが広がるようサポート<br>< <u>多摩センター・聖蹟桜ヶ丘地区</u> 四季折々のイベント、多摩市民文化祭、 <u>多摩市気候市民会議</u> 、 <u>クリエイティブキャンパス企画室</u> > |
| ⑱子育てに関わる者へのサポートの充実      | 関係機関と連携し、子育てに関わる全ての人が助け合い、子どもとともに成長していくような取組をサポート<br><子育てひろば（地域子育て支援拠点事業）、 <u>パルテノン多摩 こどもひろばOLIVE</u> 、子ども・子育てサービスガイド>                    |
| ⑲学校と地域との連携強化            | 子どもの成長や子育てを支えるために行われている様々な活動について、学校と地域が一層連携して活動を行っていくようサポート<br>< <u>放課後子ども教室</u> 、地域学校協働活動、コミュニティ・スクール、 <u>部活動の地域展開</u> >                 |
| ⑳健幸まちづくりの推進             | 「健幸まちづくり」の取組を通して、誰もが健康で幸せに活動できるようサポート<br><快汗スポーツDAY、 <u>多摩市健幸ポイント TAMAるんるん♪</u> 、多摩市民文化祭>   |
| ㉑企業連携による学習・教育の推進        | 企業と連携し、また企業同士の連携をサポートしながら、多様な学びの輪を広げる<br>< <u>東京ヴェルディとの協働事業</u> 、 <u>読売巨人軍との協働事業</u> 、子どもサッカーアクション事業>                                     |
| ㉒SDGsの取組の拡充             | 多摩市らしさを踏まえながら、SDGsの取組を推進<br><多摩市水辺の楽校、多摩市ESDコンソーシアム連絡会>   |

# 成果目標と計画の進行管理

## 目指す方向1 誰もが一歩をふみだせるまち

| 推進項目       | 成果目標   | 基準値           |
|------------|--|---------------|
| 1 広報・情報提供  | (仮称)多摩市生涯学習情報ページの閲覧数の向上  | 令和8年度<br>の閲覧数 |
| 2 相談       | 地域福祉の推進についての市政に「満足」「やや満足」している市民の割合の向上                                    | 17.6%         |
| 3 居場所・場づくり | 「地域の支え合いにより住み慣れた地域で暮らし続けられるまち」であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合の向上 | 46.5%         |

## 目指す方向3 いつでもどこでも自分を高められるまち

| 推進項目                   | 成果目標   | 基準値   |
|------------------------|--|-------|
| 6 ボランティア・市民活動          | この1年くらいの間に「ボランティア活動や地域活動に関するもの」について、「現在、学習している」「これまでに学習したことがある」と回答した市民の割合の向上 | 16.0% |
| 7 大学との連携・社会教育施設によるサービス | 市民の学びに資する大学との連携事業数の増加  | 99事業  |
| 8 誰もが学べる環境づくり          | この1年くらいの間に「生涯学習」を「現在、学習している」「これまでに学習したことがある」と回答した市民の割合の向上                    | 69.4% |

## 目指す方向2 人と人とのつながり認め合うまち

| 推進項目         | 成果目標   | 基準値   |
|--------------|--|-------|
| 4 地域活動・地域づくり | 「多様な担い手が協働し、人々がつながりを持って互いに支え合えるまち」であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合の向上 | 15.0% |
| 5 学習の機会づくり   | 「文化活動やスポーツをするための環境がよいまち」であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合の向上           | 39.9% |

## 目指す方向4 学びあいと協働でかがやくまち

| 推進項目                  | 成果目標  | 基準値   |
|-----------------------|---|-------|
| 9 市民協働の機会づくり          | 市民参加のまちづくりについての市政に「満足」「やや満足」している市民の割合の向上                                    | 14.5% |
| 10 連携・協働による子どもの成長への支援 | 「子どもがのびのびと過ごし、学び、成長できるまち」であるかの設問に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合の向上         | 60.1% |
| 11 持続可能で元気な地域づくり      | 「健幸都市（スマートウェルネスシティ）・多摩」の推進（健幸まちづくり）の取り組みについて「よく知っている」「少し知っている」と回答した市民の割合の向上 | 38.8% |

本計画の進行管理は、各個別施策事業等の進捗・実施状況を各年度確認していきます。各個別施策事業等を実施することで、推進項目ごとに設定した成果目標の向上が図られたかどうかを、多摩市政世論調査の実施頻度と合わせて確認します。

これらの総合的な評価や改善に向けた協議を行うために、市長を本部長として各部関係部長で組織され、生涯学習推進計画の策定及び総合的推進に関する事を決定する「多摩市文化・生涯学習推進本部」を毎年度開催します。また、「学びあい育ちあい推進審議会」による評価を実施します。さらに、その評価結果を基に、各関係課長で組織した「多摩市文化・生涯学習推進本部専門委員会」において、本計画に基づく具体的施策の協議及び調整を行い、本計画の着実な推進を図っていきます。